

論文審査の結果の要旨および担当者	
学位申請者	一色 佳彦
論文担当者	主査 道免 和久
	副査 木村 卓
	副査 垣淵 正男
学位論文名	Clinical features and treatment status of antiacetylcholine receptor antibody-positive ocular myasthenia gravis (抗アセチルコリン受容体抗体陽性眼筋型重症筋無力症の臨床的特徴と治療評価)
<p style="text-align: center;">論文審査の結果の要旨</p> <p>重症筋無力症 (MG) は、筋の易疲労性、眼瞼下垂、複視など多彩な症状を呈する自己免疫性全身疾患である。眼筋型重症筋無力症 (OMG) の診断基準はあいまいで、明確な診断基準をもとに臨床症状や予後を多数例で検討した眼科からの報告は少ない。今回、眼症状のため眼科を受診し、アセチルコリン受容体抗体 (AChRab) 陽性 OMG 症例の、OMG から全身型 MG (GMG) への移行の予測因子を調査し、さらに、ステロイド依存 OMG 症例に対する治療プロトコールならびにタクロリムス (TAC) 併用の有効性を検討した。</p> <p>AChRab 陽性で、日内変動や易疲労性を呈し眼瞼下垂と眼球運動障害の両方、またはいずれか一方を満たす OMG 症例 52 例を対象とし、OMG に留まった症例 (p-OMG) ならびに GMG への移行例 (TMG) の臨床的特徴を比較。次に、p-OMG 症例を、TAC 承認前に治療を開始した Before 群と承認後の After 群にわけ、プレドニゾロン (PSL) の投与量と投与期間を比較した。第 3 に、MGFA-PS 分類で p-OMG の治療評価をおこなった。</p> <p>最終対象症例は p-OMG 群 41 例、TMG 群 11 例。AChRab 価 (P = .0006)、胸腺腫 (P=.001) は、p-OMG 群に比べ TMG 群で明らかに高かった。p-OMG 群では、治療前と比較して MG composite score (P≤.0001) と AChRab 価 (P=.005) が明らかに改善。1 日 PSL 量 20 mg 以上 (P = .009) および 10~19 mg (P = .002) の投与期間は、After 群で有意に短縮。最終診察時 MGFA-PS の 1 日 PSL5mg 以下で軽微症状以上を達成できたのは 78.0%であった。TMG 症例に特徴的な因子は、AChRab 価高値と胸腺腫であった。ステロイドでコントロールできない p-OMG 症例に対し、TAC を併用することが有効であった。</p> <p>本研究は、眼筋型重症筋無力症の特徴と予後およびその治療法、特にタクロリムス併用効果について眼科領域で初めて多数例の検討で明らかにした臨床的に意義あるものであり、学位論文に十分値するものと評価した。</p>	